

2012年5月11日パリ

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2012 年度第 1 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2012年度第1四半期業績

迅速な事業適応計画の実施による

堅調な事業展開

事業適応計画は予定よりも迅速に実施

流動性の必要額削減目標の70%達成

4月末時点でリスク・ウェイト資産削減目標額の91%を達成

クレディ・アグリコルはフランス経済における主要な金融サービス会社としての地位を確認

第1四半期のローン残高は前年同期比4.1%増

第1四半期預金残高は前年同期比8.1%増(地域銀行とLCL)

第1四半期のフランス国内の地域銀行及びLCLによる新規ローン残高は200億ユーロ

2012年度第1四半期のクレディ・アグリコル・グループ*

収益: 2012年度第1四半期は前年同期比で1.3%増の91億ユーロ。特別項目**を除き2.7%減。

税引前利益: 第1四半期は前年同期比で30.5%減の18億1,700万ユーロ

純利益グループ帰属分: 第1四半期は前年同期比で47.3%減の8億400万ユーロ

コア・ティア1レシオ: 10.9% - EBAレシオ: 10.4%

*クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行100%を含む

**事業適応計画、民間部門関与 (PSI)、エンポリキ、ハイブリッド証券買い戻し、株式持分売却

2012年度第1四半期クレディ・アグリコルS.A.

収益: 2.3%増の54億ユーロ

税引前利益: 8億5,800万ユーロ

ハイブリッド証券買い戻し及び売却損: +4億6,600万ユーロ*

ギリシャ関連コスト(PSI及びエンポリキ): -9億4,000万ユーロ*

事業適応計画関連コスト: -2億2,400万ユーロ

純利益グループ帰属分: 2億5,200万ユーロ

コア・ティア1レシオ: 9.4%

* 純利益グループ帰属分への影響額

クレディ・アグリコル・グループ

2012年度第1四半期、クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は8億400万ユーロとなりました。クレディ・アグリコルS.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは、この業績は事業適応計画の目標に沿ってその成長がコントロールされている中で、堅調な事業展開を反映しているものだとして述べました。当適応計画の実施の加速化により、当グループは既に負債削減目標の70%、リスク・ウェイト資産削減目標の91%を達成しました。その結果、当期は年間予想の半分に近い影響額が織り込まれています。

2011年度下半期に顕著となった傾向が持ち越されたため、第1四半期中も厳しい状況となり、引き続きユーロ圏で緊張が続いたことや、ギリシャ債務への民間部門関与（以下、PSI）の条件などに影響を受けました。第1四半期中、クレディ・アグリコル・グループはクライアントと地域経済に金融サービスを提供するべく引き続き事業活動を展開させました。フランスのリテール・バンキングでは、ローンは2011年度第1四半期比で4.1%増加し、オン・バランスシートの預金額は8.1%増加しました。特に地域銀行では、引き続き全ての顧客セグメントをサポートし、住宅ローン残高は前年同期比5.8%増加し、法人及びスモール・ビジネスへの貸出しは前年同期比1.7%増加しました。またオン・バランスシートの預金残高を伸ばすべく積極的に取り組み、同残高は6.3%増加しました。

その結果、クレディ・アグリコル・グループの収益は堅調だった2011年度第1四半期と比べても1.3%増加しました。営業総利益は、コストが抑えられ安定していたことから3.2%増加しました。ハイブリッド証券の買い戻し、ギリシャ、事業適応計画の影響額を除き、業績は堅調でした。収益は僅かに2.7%減少し、営業費用は0.8%の増加に留まりました。業績には、ギリシャ関連の影響額とイタリアの消費者信用残高の見直しにともなって増加したリスク関連費用の影響が含まれています。そのため、リスク関連費用は再び大幅増となりました（前年同期比+75.9%）。当事業部門とギリシャ関連のリスク関連費用引当金、ギリシャのPSIとアゴス(Agos)の追加費用を除いて、リスク関連費用はローン残高の56ベシス・ポイントに相当します。これは、2011年度第1四半期と同程度の満足のいく水準となりました。

ソルベンシーに関しては、2012年3月31日現在のコア・ティア1レシオは10.9%となり、2012年度第1四半期は2011年度第4四半期に比べて70ベシス・ポイント高い水準となりました。分子には、地区金庫による出資証券発行の最初の効果が含まれています（+2億ユーロ）。これは2013年末のバーゼル3の目標である10%ソルベンシー・レシオを十分に満たしています。また、2012年度第1四半期以降は、ソルベンシー・レシオを計算するにはフロアーは適用されていません。

EBALレシオは2012年3月31日現在では10.4%でした。

クレディ・アグリコルS.A.

2012年度第1四半期の業績見直しのために、2012年5月10日ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

純利益グループ帰属分は2億5,200万ユーロに達しました。クレディ・アグリコルS.A.のCEO、ジャン・ポール・シフレは世界的な景気低迷や特定の不安材料にもかかわらず、満足のいく事業パフォーマンスを反映したものだとして述べています。事業適応計画は、迅速かつ効果的に実施されており、-2億2,400

万ユーロでした。純利益グループ帰属分には、ハイブリッド証券の買い戻し益と、各種証券の売却損（特にインテサ Intesa に関連したもの）を相殺した4億6,600万ユーロも含まれています。ギリシャ関連費用合計は、PSIの実行分と拡大適用分（3億7,300万ユーロ）、ならびにエンポリキ（事業セクター及びカントリー・リスク関連費用引当金を含む5億6,700万ユーロ）によって9億4,000万ユーロとなりました。加えて、税控除対象外の費用が大きかったことから税率は高くなりました。

上記に挙げられた特別項目を除く純利益グループ帰属分は9億5,000万ユーロに達し、高水準であった2011年度第1四半期と比べると前年同期比16.9%の減少となりました。

リテール・バンキングと資産運用管理の事業部門は事業活動、収益性ともに伸びました。フランス国内のリテール・バンキングの純利益グループ帰属分は、前年同期比1.2%増加し、資産運用（アムンデイ）では21.6%増加、資産運用サービスでは30.5%増加しました。専門金融サービスは、事業適応計画の枠組みの中でそのオペレーションを行っており、ビジネスの低迷と現金利用の削減に対し積極的に取り組んでいます。法人及び投資銀行部門は、資本市場の力強い回復とファイナンス事業のリスク関連費用の大幅な減少による恩恵を受けました。

事業適応計画の成功

クレディ・アグリコル・グループは事業適応計画の実施を積極的に押し進めました。その結果、4月末には、コリレーション勘定のマーケットリスクの移転を除いても、資金調達必要額削減目標の70%を達成し、同計画のリスク・ウェイト資産の削減目標の91%を達成しました。この取引を含めた場合では、当グループは目標を上回りました。

フランス国内、海外ともに全グループのネットワークでオン・バランスシート上の預金額が増加したことと、ローン残高の伸びが抑えられたことによって、貸出／預金比率は2011年6月末の128.8%から125.3%へと3ポイント以上改善しました。専門金融サービス部門は、資金調達源を多様化しました。クレディ・アグリコルCIBのファイナンス事業では、ローン売却が平均減損率2.5%という有利な条件で実行されました。4月末に自己勘定ポートで保有していたCDOとRMBSは売却されました。

流動性とソルベンシーの強化

クレディ・アグリコルS.A.は、事業適応計画を通して資金調達必要額の段階的削減を達成する一方、流動性ポジションを引き続き強化しています。流動性準備金は1,440億ユーロまで増加し、3月31日現在で短期純負債額を超えました。更に、4月末時点で、当グループは中・長期債のMTNプログラムの74%を既に発行完了しました。

クレディ・アグリコルS.A.のCEOであるジャン・ポール・シフレは、クレディ・アグリコルS.A.が引き続き財務の健全性を強化したことを強調しました。コア・ティア1レシオは2011年度第4四半期よりも80ベース・ポイント高い9.4%に達しました。この改善は、主にリスク・ウェイト資産の著しい減少によるものです。クレディ・アグリコルS.A.の2012年3月31日現在のティア1とソルベンシー・レシオは前期比でそれぞれ70ベース・ポイント、50ベース・ポイント上昇して、11.9%、13.9%となりました。

社会的・環境的責任：ニュース

2011年末にクレディ・アグリコルS.A.とダノン(Danone)と他の2社のパートナーによって創設されたライブリーフズ(The Livelihoods)・ファンドは、2012年の年初に規模を拡大し、新たに2社の主要株主を迎えました。ライブリーフズ・ファンドは南欧諸国の地方コミュニティのために設立された二酸化炭素排出を削減するためのファンドです。持続可能な農業活動を奨励することで天然のエコシステム、森林農業、土壌回復を目指し、森林破壊を防ぐための地方のエネルギー・プロジェクトを支援しています。

2012年3月に、クレディ・アグリコルS.A.は2008年にモハメド・ユヌス教授とともに創設したグラミン・クレディ・アグリコル基金(Grameen Credit Agricole Foundation)の創設4周年を祝いました。ユヌス教授は、2006年度ノーベル平和賞の受賞者であり、グラミン銀行の創設者です。当基金は、マイクロ・ファイナンスにおける重要な役割を認められ、社会的責任を持つビジネスのパイオニアとしての評価を得て来ました。グラミン・クレディ・アグリコル基金は、社会的ビジネスに全面的に焦点を当てた初めてのファンドであるグラミン・クレディ・アグリコル・ファンドを創設することにより、この分野での活動を更に促進していく計画です。当ファンドは、社会的ビジネスに積極的な投資家に事業に参画する機会を提供することになります。

クレディ・アグリコルS.A.は、ユーロ市場において(社会や環境に配慮した)「サステナブル債」の初の公募起債の共同引受主幹事ならびに事務主幹事を務めました。当債券は、イル・ド・フランス地方のために2012年3月12日に起債されました。この3億5,000万ユーロ、年利3.625%の12年債に対して投資家から大きな関心が寄せられました。調達資金は、エネルギー、輸送、自然環境保護、公共住宅、社会的に最も弱い立場にある人々のための支援施設、経済・社会・コミュニティ開発といった分野において、社会的、環境的見地から模範となるようなプロジェクトをファイナンスするために使用されます。このような取り組みは、クレディ・アグリコルS.A.が社会的責任投資の分野でリーダーのポジションを今後も維持していこうとする決意を反映しています。

クレディ・アグリコルS.A.は5年連続で、「最も持続可能なグローバル企業100社」の一社に選ばれました。2012年1月25日にダボスで行われた世界経済フォーラムでは、世界で第16位、フランス国内で第2位にランクされました。また、クレディ・アグリコルS.A.は4つの主要な社会的、環境的責任投資インデックスに含まれています。それらはASPIユーロゾーン(2004年以降)、FTSE4Good(2005年以降)、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ指標(DJSI)(2008年以降)、及びストックス・グローバル・ESG・リーダーズ指標(2011年以降)です。

決算スケジュール

2012年5月22日	クレディ・アグリコルS.A.年次株主総会
2012年8月28日	2012年度上半期決算発表
2012年11月9日	2012年度第3四半期決算発表

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change Q1/Q1
Revenues	5,425	5,304	+2.3%
Operating expenses	(3,207)	(3,276)	(2.1%)
Gross operating income	2,218	2,028	+9.3%
Cost of risk	(1,770)	(822)	x2.2
Operating income	448	1,206	(62.9%)
Equity affiliates	415	441	(6.0%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets	(5)	1	nm
Change in the value of goodwill	-	-	nm
Pre-tax income	858	1,648	(47.9%)
Tax	(595)	(520)	+14.4%
Net income from discontinued activities	2	(4)	nm
Net income	265	1,124	(76.4%)
Minority interests	13	124	(89.7%)
Net income Group share	252	1,000	(74.8%)

2012年度第1四半期の収益は前年同期比2.3%増の54億ユーロに達しました。この中にはハイブリッド証券の買い戻し益8億6,400万ユーロ、事業適応計画による法人営業及び投資銀行(CIB)のポートフォリオ売却による売却損3億9,400万ユーロ、ならびに持分売却による9,300万ユーロの実現損失が含まれています。

営業費用は32億ユーロで、前年同期比2.1%減少しました。営業費用にはCIBのシュブルー(Cheuvreux)の引当金のために計上された費用の戻し入れ4,000万ユーロが含まれています。

営業総利益は前年同期比9.3%増の22億ユーロとなりました。上記の全ての項目を修正後、営業総利益は10.6%減、コスト比率は63.9%となりました。

2012年度第1四半期のリスク関連費用は、欧州包括合意によるギリシャ支援策のための3億9,700万ユーロとエンポリキのリスク関連費用4億8,500万ユーロを含めて約18億ユーロでした。事業適応計画を前倒し実行した結果、CIBは3,900万ユーロの費用を認識し、専門金融サービスでは3,400万ユーロの利益を認識しました。これらの影響を調整した場合にはリスク関連費用は46.7%増加することになります。また費用増加の残りの要因は、イタリアの消費者金融子会社アゴスで計上された2億8,000万ユーロの追加引当金です。

不良債権*は238億ユーロ、2011年3月31日現在で不良債権が総顧客ローン及び銀行間ローンの4.4%を占めていたのに対し、2012年3月31日現在では4.7%でした。2011年3月31日現在、不良債権は個別引当金によって50.1%カバーされていたのに対し、2012年3月31日現在では56.5%に上昇しています。また一般貸倒引当金を含めると、不良債権カバー・レシオは72.1%で、2011年3月末比6.6%上昇しました。

* クレディ・アグリコルの内部オペレーション、未払利息、リース・ファイナンス取引を除く。

関連会社からの収益は地域銀行帰属分の3億7,200万ユーロを含めて4億1,500万ユーロに達しました。

税引前利益は8億5,800万ユーロでした。上記の項目を調整した場合、前年同期比28.8%減の13億ユーロになりました。

課税額は2011年度第1四半期比14.4%増の5億9,500万ユーロに達しました。これにはエンポリキへの繰延税金資産の一部の減損分1億2,800万ユーロが含まれています。

全体では、クレディ・アグリコルS.A.の**純利益グループ帰属分**は2011年度第1四半期が10億ユーロだったのに対し、2012年度第1四半期は2億5,200万ユーロとなりました。

予定よりも前倒して実行される事業適応計画

当グループは2011年12月14日に発表した、以下の主要な三項目に焦点を当てた事業適応計画を着実に実施しています。

- ・ **リテール・バンキング部門**: 貸出／預金比率の全体的な改善。
フランス国内、海外共に当グループのネットワーク全般にわたってオン・バランスシートの預金を伸ばし、ローン残高の伸びを管理し、貸出／預金レシオを2011年6月末現在の128.8%から125.3%に改善しました。
- ・ **専門金融サービス部門**: 流動性必要額の削減と資金調達源の多様化。
消費者金融及びリース・ファイナンス、ファクタリング部門共に残高の伸びを管理する一方、主に預金と証券化による資金調達源の拡大に務める。
- ・ **CIB**: 資産売却。
2012年度第1四半期中は、引き続き低水準の減損率で(平均減損率2.5%で合計12億ユーロのローンを売却)ファイナンス事業のローンの売却を実施、CDOとRMBSの売却は既に当初の目標を超え、これによりバーゼル3のリスク・ウェイト資産の削減にも寄与しました。

その結果、2012年3月末現在で資金調達必要額の削減目標の64%を達成し、追加策を含めその70%を達成しました。リスク・ウェイト資産(RWAs)に関しては、コリレーション勘定の移転を含めない場合でも事業適応計画下の削減目標の91%が4月末現在で達成されています。

資金調達必要額の削減

€bn At current exchange rates	Realised between 30/06/11 and 31/12/11	Realised in Q1-2012	Total realised at 31/03/2012	Target between 30/06/11 and 31/12/12	% realised
Adjustment plan					
• Retail banking	- 9	- 1	- 10	- 23	
• Specialised financial services	- 1	- 1	- 2	- 9	
• CIB	- 11	- 9	- 20	- 18	
Total adjustment plan	- 21	- 11	- 32	- 50	64%
Other measures					
• SFS – Securitisation and other	- 2	- 1	- 3	-	
Total reduction of funding requirements	- 23	- 12	- 35	- 50	70%
At constant exchange rates	- 28	- 10	- 38		

リスク・ウェイト資産の削減

€bn	Realised between 30/06/11 and 31/12/11	Realised in Q1- 2012	Total realised at 31/03/20 12	April 2012	Realised - Total at end- April 2012	Target between 30/06/11 and 31/12/12	% realised
At constant exchange rates							
Adjustment plan							
• SFS	- 1	- 2	- 3	ns	- 3	~ - 5	
• CIB	- 11	- 16	- 27	- 2	- 29	~ - 30	
• Current impact (Basel 2.5)	- 7	- 5	- 12	ns	- 12	~ - 18	
• 2013 impact (Basel 3)	- 4	- 11	- 15	- 2	- 17	~ - 12	
Total adjustment plan	- 12	- 18	- 30	- 2	- 32	~ - 35	91%
Other measures							
• CIB – transfer of market risk of correlation book (net impact)		- 8	- 8	- 6	- 14		
Total reduction of risk-weighted assets (including Basel 3 impacts)	- 12	- 26	- 38	- 8	- 46		

財務状況

2012年度第1四半期中、クレディ・アグリコルS.A.は引き続き財務ポジションを強化しました。コア・ティア1レシオは2011年度第4四半期より80ベース・ポイント高い9.4%となりました。この上昇の殆どは、事業適応計画に沿ったリスク・ウェイト資産の減少(2012年度第1四半期は2011年12月31日現在比-240億ユーロ)と、コリレーション勘定に於けるリスク資産の売却によるものです。このリスク・ウェイト資産減少のうち、95億ユーロは主に事業適応計画(ローン売却等)に関連したCA-CIB(-70億ユーロ)のクレジット・リスク資産の売却と、金融専門サービスのビジネスの減速によるものです。更に、ブルー・マウンテン(Blue Mountain) に対しコリレーション勘定のリスク資産を売却したことにより、マーケット・リスクに関連したリスク・ウェイト資産は大幅に減少(150億ユーロ減)しました。資本控除も考慮に入れると、ブルー・マウンテンの取引による影響(ネット)は2012年度第1四半期が純額で-80億ユーロ、2012年度上半期では-140億ユーロになる予定です。

控除後の2012年度第1四半期のティア1キャピタルは、2011年第4四半期比7億ユーロ減少しました。この減少は、含み益によるプラスの影響、コリレーション勘定のリスク資産のブルー・マウンテンへの売却(-5億ユーロ、リスク・ウェイト資産では60億ユーロに相当)による影響、クレディ・アグリコルS.A.が発行した最劣後債券(ハイブリッド証券)の買い戻しによるティア1で-17億ユーロの効果、CDOとRMBSポートフォリオの売却(10億ユーロ減少、ティア1で50%、ティア2で50%)による影響、以上4点によるものです。

2012年3月31日現在、クレディ・アグリコルS.A.のティア1とソルベンシー・レシオは前年同期比それぞれ70、50ベース・ポイント上昇し、11.9%、13.9%となりました。

流動性

クレディ・アグリコル・グループの短期負債合計金額(当グループの資金部門が市場参加者を通じて調達した370日以内償還債券の発行済残高)は、2011年6月30日現在が1,850億ユーロだったのに対し、2012年3月31日現在は1,320億ユーロまで減額しました。当グループは手元剰余金を保有し、(法定準備金に加えて)中央銀行へのオーバーナイト預金は、ユーロと米ドルで2011年6月末現在の150億ユーロから2012年3月末現在の250億ユーロに増加しました。

ドルのポジションは、2011年12月31日と比較して安定しました。米国債は短期負債合計額の僅か4%を占めています。また米ドル建ての負債の比率は、17%でした。通貨別では、短期負債のうちフランスが58%、ベネルクスが8%、アイルランドが5%となっています。

2011年6月から2012年3月の間に、9月28日に発表された負債削減目標に沿って、中央銀行への預金を除く短期負債は、630億ユーロ削減されました。一方中央銀行に預け入れてある追加流動性は、同期間で100億ユーロ増加しました。短期負債の減少のほとんどは、各事業部門の資金必要額の段階的な削減によるもので、その額は320億ユーロです。その内訳は、リテール・バンキング部門の削減が100億ユーロ、CIBが200億ユーロ、専門金融サービス部門が20億ユーロでした。また短期負債を50億ユーロの中・長期負債に借り替えたことと、中央銀行へのレポやアクセスを通して流動性準備金を使ったことも減額の理由です。

2012年3月31日現在、市場流動性のある即時利用可能な資産、或いは中央銀行から即時利用可能な割引換算後の資産準備金は、中央銀行から即時利用可能な1,200億ユーロも含めて1,440億ユーロに達し、2011年12月31日現在より340億ユーロ多い額となりました。またこの流動性準備金は短期純負債を超過しました。証券化可能な高信用のリスク資産の大規模な基盤があることにより、新規準備金が再編成されました。利用可能な準備金は、中央銀行から利用可能な資産580億ユーロ（準備金合計の40%）、中央銀行の適格要件を満たす市場流動性のある証券が620億ユーロ（43%）、市場流動性のある証券が170億ユーロ（12%）、証券化及び再証券化トランシェの70億ユーロ（5%）から成ります。

中・長期資金調達では、2012年4月30日にクレディ・アグリコルS.A.は、MTNプログラム設定額の74%の金額を起債しました。2012年の目標は120億ユーロに設定されており、2012年の年初から89億ユーロを調達しました。平均年限は7.7年で平均スプレッドはミッド・スワップに対し137ベース・ポイントです。

同時に当グループは、他の資金調達方法へのアクセスも開発しています。それらは顧客ネットワークと専門子会社による調達で、2012年度第1四半期には地域銀行によって12億ユーロ、LCLとカリパルマのネットワークを通して25億ユーロ、クレディ・アグリコルCIBは主に私募のストラクチャード商品を通して16億ユーロ、クレディ・アグリコル消費者金融を通して6億ユーロ調達しました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. - クレディ・アグリコル地域銀行

2012年第1四半期の地域銀行は、クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分への寄与3億7,200万ユーロに反映されているように堅調な事業展開を維持しました。

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change Q1/Q1
Net income accounted for at equity method (at about 25%)	227	227	+0.2%
Change in share of reserves	145	147	(1.7%)
Share of income from equity affiliates	372	374	(0.4%)
Net income Group share	372	374	(0.4%)

地域銀行のネットワーク全体が、新規預金を増やすことに著しい努力を重ねたことから堅調な事業展開を維持することができました。2012年度第1四半期のオン・バランスシートの預金の伸び率は加速し、前年同期比6.3%増となりました。この伸び率は、預金口座（前年同期比6.1%増）、定期預金（23.0%増）の増加に牽引されました。要求払い預金と住宅購入貯蓄プラン及び口座は、2011年度第1四半期と比べて安定しました。オン・バランスシートの預金は年間でほぼ190億ユーロ増加して2012年3月末現在では3,180億ユーロとなりました。オフ・バランスシートの預金は、2011年3月から2012年3月の

間に2.3%減少しました。これはビジネスの減速や、証券、投資信託、REITセグメントなどの市況の低迷によるものです。生命保険への資産流入は厳しいビジネス環境にもかかわらず、年間で1.1%増加しました。オン・バランスシート、オフ・バランスシートの両方を合わせた預金は前年同期比2.4%増の5,560億ユーロとなりました。

貸出しでは、地域銀行は顧客及びフランスの地域経済に金融サービスを提供するためのコミットメントを維持しました。年間で総ローン残高は4.1%増加し、ほぼ3,940億ユーロに達しました。この伸びは主に住宅ローンによるものです。住宅ローンの伸びは一部には税の優遇措置（セカンドハウスに対するキャピタルゲイン課税）が終了することから2012年1月中の建設が増加したことによるもので、住宅ローンは12ヶ月間で5.8%増の2,160億ユーロに達しました。貸出しの伸びは、住宅ローンだけでなく全ての経済媒体によって牽引されました。中小企業ローン及びスモール・ビジネスへのローンは2011年3月から2012年3月の間に1.7%増加し、地方自治体への貸出しは同期間で6.5%増加、農業従事者へのローンは同期間で0.5%増加しました。消費者金融は、マーケットの低迷により、ローン残高は減少しました（前年同期比3.7%減）。

結果的に2012年度第1四半期の貸出／預金比率は安定し、2011年3月末現在の131%に対し、129%となりました。

2012年度第1四半期の地域銀行の収益（グループ内取引を修正後）は、34億ユーロに達し、前年同期比で1.8%減と僅かな減少にとどまりました。地域銀行は、ポートフォリオの金利差益による恩恵を受けました。顧客ビジネスの収益は2011年第1四半期から2012年第2四半期の間に2.7%減少しました（住宅購入貯蓄プランを除く）。これは主に2つの理由によるものです。第1は、低金利で住宅購入貯蓄プランを除いた利ざやは3.2%に低下しました。第2は、仲介手数料収入の減少（2011年度第1四半期比2.1%減）で、これは損害保険、その他銀行サービスが良好な業績を達成したものの、オフ・バランスシートの顧客預金の伸びが減速したことによるものです。

地域銀行は費用を抑えることができました。2011年の年間費用は前年比で4.0%増加したのに対し、2012年度第1四半期は、前年同期比で1.1%増と僅かな増加に留まりました。2012年度第1四半期のコスト比率は53.6%となりました。ニースITプロジェクト関連のコストも2011年度と比較して安定しました。

2012年度第1四半期は、のリスク関連費用は前年同期比11.3%減少しました。リスク関連費用は-3億3,300万ユーロで、2012年度第1四半期はローン残高の40ベシス・ポイントに相当したのに対し、2012年度第1四半期はローン残高の34ベシス・ポイントにとどまりました。2012年3月末現在のローン引当金合計は不良債権の108.3%に達し、不良債権はローン残高の2.4%と安定しました。

全体では、2012年度第1四半期の地域銀行のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する寄与は、3億7,200万ユーロとなり、2011年第1四半期と同水準でした。

1.2. – LCL

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change* 2011/2010
Revenues	1,012	988	+2.4%
Operating expenses	(616)	(612)	+0.7%
Gross operating income	396	376	+5.3%
Cost of risk	(78)	(80)	(2.1%)
Operating income	318	296	+7.3%
Equity affiliates	-	-	
Net income on other assets	(1)	-	nm
Change in value of goodwill	-	-	
Pre-tax income	317	296	+6.9%
Tax	(102)	(91)	+12.8%
Net income (after tax) from discontinued activities			
Net income	215	205	+4.3%
Minority interests	11	10	+3.9%
Net income Group share	204	195	+4.4%

2011年末に生じた傾向と同様、2012年度第1四半期は預金が増加し、貸出しの伸びが抑えられました。LCLは、これによってフランスの地域経済のファイナンスに深く関わっていることを示しました。

顧客総資産は、前年同期比3.5%増の1,526億ユーロに達しました。2011年度第1四半期と同様、オン・バランスシートの顧客預金は、2桁の伸びを記録しました(前年同期比16.2%)。特に定期預金は顕著な伸びを示し、前年同期比36.9%増となりました。オフ・バランスシートの顧客預金は、前年同期比で7.0%減少しました。これは主に投資信託の減少(-20.2%)によるものです。2012年3月末現在の顧客預金は753億ユーロで、2011年12月31日現在の746億ユーロから0.9%増加しました。

2012年3月末現在のローン残高は、前年同期比4.3%増の874億ユーロとなりました。この伸びは、主に住宅ローンの増加(2011年3月から2012年3月の間に+7.1%)と、4.3%増加した法人向け貸出しによるものです。

LCLの貸出／預金比率は抑えられました。2011年3月末現在の126%に対し、2012年3月現在では116%となりました。

2012年度第1四半期の収益は、2011年度第1四半期比2.4%増加し、住宅購入貯蓄プランとEICの戻し入れを除いた場合、0.7%の増加となりました。利ざやは貸出金利差益の6.7%増加を含め、8.8%増加しました。手数料収入はビジネス（貸出及びオフ・バランスシート預金）が減速したことと、銀行間の支払い手数料が低下したことにより、減少となりました。

営業費用は引き続き抑えられ、僅かに0.7%増加しました。営業総利益は5.3%増加し、3億9,600万ユーロとなりました。

2012年度第1四半期のリスク関連費用は前年同期比2.2%減少しました。ローン残高に対しては34

ベース・ポイントとなり、2011年度第1四半期に比べると4ポイントの低下となりました。2011年12月31日現在の不良債権はローン残高全体の2.5%だったのに対し、2012年3月31日現在の不良債権はローン残高全体の2.4%に低下しました。カバー・レシオは強化され、2011年末現在の75.5%に対し、2012年3月末現在には76.7%に上昇しました。

全体では、前年同期比で営業利益は7.3%増加し、純利益グループ帰属分は4.4%増の2億400万ユーロとなりました。

2. 国際リテール・バンキング

2012年度第1四半期の国際リテール・バンキングは、再びギリシャ支援策による影響を受けました。2012年2月24日に、ギリシャは、ユーロ圏包括合意であるギリシャ支援策を政府保有の3社に対し拡大適用する意向のあることを発表しました。更に、ギリシャ国債の国債交換に追加リスク関連費用が計上されました。これら2つの項目が純利益グループ帰属分に与えた影響額は-3億3,800万ユーロに達しました。

2012年度第1四半期、全体では当部門の純利益グループ帰属分は、8億4,600万ユーロの損失となりました。ギリシャによる影響額を除いた場合、国際リテール・バンキングは、クレディ・アグリコルS.A.の業績に5,900万ユーロ寄与しました。

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change Q1/Q1
Revenues	746	773	(3.4%)
Operating expenses	(507)	(495)	+2.4%
Gross operating income	239	278	(13.8%)
Cost of risk	(944)	(318)	x3
Operating income	(705)	(40)	x17.6
Equity affiliates	24	28	(13.1%)
Net income on other assets	2	-	nm
Pre-tax income	(679)	(12)	x55.6
Tax	(176)	(49)	x3.6
Net income (after tax) from discontinued activities	2	1	x2.1
Net income	(853)	(60)	x14.2
Minority interests	(7)	(1)	x7.9
Net income Group share	(846)	(59)	x14.3

注：2012年度第1四半期は、BNIマダガスカル(BNI Madagascar)は非継続事業に再分類されました。第1四半期の前年同期比収益の減少はこの再分類によるものです。

イタリアでは、厳しい環境が長期化する中で、2012年度第1四半期のカリパルマの収益性は2011年度第4四半期に比べて堅調でした。

2012年3月末現在では、ネットワークの努力により、全ての部門においてオン・バランスシートの預金
が引き続き増加しました(前年比では16%増加、前期比では3%増加)。この良好な業績がオフ・バラン
スシートの預金にマイナスの影響を与えることはありませんでした。生命保険では、2012年度第1四半
期の運用資産は前年比11%増加し、前期比ではほぼ横ばいとなりました(1%減少)。同時にマーケッ
トが縮小する中で、2012年度第1四半期のローン残高は2011年度第4四半期比ほぼ横ばいでした
(0.6%の減少)。これらの2つの要因により、2012年3月末現在のローン残高に対する預金残高は、13
億ユーロの預金超となりました。

2011年第4四半期の収益は低い水準でしたが、第1四半期の収益は前年同期比3.5%増加しました。
第1四半期の費用は前年同期比6.4%減少しました。これは統合関連費用が減少したことによります。
更に、カリパルマは2012年度の費用削減プログラムを明確にしました。リスク関連費用は残高の88ペ
ーシス・ポイントとなり、金額では高水準にあった前期と比較して22.4%の低下となりました。リスク関連
費用を抑えるために、カリパルマは回収手続きの最適化に取り組みました。不良債権の計算方法に関
するイタリアの法律改正(ローンを不良債権に分類する際の元利金支払い延滞日数を180日から90日
に短縮)がリスク関連費用に与えた影響は僅かでした。全体では、2012年度第1四半期のカバー・レシ
オは前期比0.4%上昇しました。

2012年度第1四半期のカリパルマの純利益グループ帰属分に対する寄与は3,100万ユーロとなり、
2011年度第4四半期からは26.2%減少しました。

ギリシャでは、エンポリキの業績結果が再びPSIとビジネス環境の悪化によって影響を受けました。
しかし、厳しい経済環境の中で、2012年第1四半期のクレディ・アグリコルS.A.は引き続きエクスポー
ジャーを削減することができました。

エンポリキのリファイナンス計画は、1年前に開始されました。これはエンポリキ自身による資金調達
源を増やし、クレディ・アグリコルS.A.からの支援を削減するよう定められたものですが、その効果は当
期も持続しています。競争が激化する中で、エンポリキは預金のマーケット・シェアを2012年3月現在で
6.27%に上昇させました。これは前年比99ベーシス・ポイントの改善です(出典:ギリシャ中央銀行)。
2012年度第1四半期のオン・バランスシートの預金は 5億7,000万ユーロ増加しました。これは定期
預金口座が前期比で22%増と順調な伸びを示したことによるもので、同預金口座は第1四半期の預金
全体の50%以上を占めています。加えて2012年度第1四半期のローン総残高は前期比3億2,100万ユ
ーロ減少しました。これらの要因の組み合わせによって、貸出と預金の差が減少し、クレディ・アグリコ
ルS.A.は、エンポリキへの資金貸出を2011年第4四半期から9億ユーロ減の46億ユーロに削減するこ
うことができました。前年比では、クレディ・アグリコルS.A.はギリシャの子会社への資金供給額を半分に削
減することができました。

2012年度第1四半期の業績は、再びビジネス環境の悪化に影響を受けました。収益は前年同期比
15.6%減少しました。これは、預金のキャンペーンならびにパフォーミングローンの削減の影響によるも
ので、この結果利ざやは減少しました。2011年の従業員削減と、会社全体で新たな給与契約を取り
決めたことにより、費用を段階的に削減することができました。2012年度第1四半期の費用は前年同期

比5.1%低下しました。リスク関連費用には数多くの特別項目が含まれました。それらは、PSIをギリシャの政府所有の3社に対し3億1,900万ユーロで拡大適用したこと、ギリシャ国債の国債交換にコスト関連費用2,500万ユーロを認識したこと、事業セクター及びカントリー・リスク費用引当金1億7,100万ユーロを計上したことなどです。2012年度第1四半期のエンポリキ銀行のノンパフォーミング・ローン・レシオは35.9%で、2011年度第4四半期から2.4%上昇しました。カバー・レシオは事業セクター及びカントリー・リスク費用引当金を含めて58.4%に上昇しました(前期比4.4%上昇)。1億3,000万ユーロの繰延税金資産は取り崩されました。

これらの特別項目全てを含めて、2012年度第1四半期のエンポリキ・グループのクレディ・アグリコルS.A.の業績に対する影響は、全体で-9億500万ユーロでした。

イタリアとギリシャを除いて、国際リテール・バンキングの銀行の貸出／預金比率はほぼ安定し、2012年3月31日現在のオン・バランスシートの預金は86億ユーロで、総ローン残高は87億ユーロでした。

ポーランド(CAポルスカ)の収益は、イタリアとギリシャを除く国際リテール・バンキングの総収益の43%を占めており、新規口座開設数を大幅に拡大しながら引き続き顧客重視型ユニバーサル銀行を発展させています。一方でルーカス・ファイナンス(Lukas Finanse)は、消費者ファイナンス・ビジネスを増やしました。更に2012年度第1四半期は、関連会社への出資においていくつか変更を行いました。クレディ・アグリコルS.A. は、BESへの出資の見直しを行い、その結果は、2012年度第2四半期の決算に反映される予定ですが、これにはBES Vidaへの持分の2億2,500万ユーロでの売却が含まれています。同時にクレディ・アグリコルS.A.は所有株数に比例してBESの増資に参加しました。また、2012年4月にクレディ・アグリコルS.A.のバンキンター(Bankinter)への持分は、2011年12月31日の24.5%から20.6%に削減されました。これは年初に行われた持分の売却と、転換社債を転換しなかったことによるものです。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-12*	Q1-11*	Change Q1/Q1*
Revenues	921	921	1,004	(8.2%)
Operating expenses	(410)	(410)	(421)	- 20.6%
Gross operating income	511	511	583	(12.3%)
Cost of risk	(625)	(659)	(318)	x2.1
Operating income	(114)	(148)	265	nm
Equity affiliates	5	5	3	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets	-	-	-	nm
Change in the value of goodwill	-	-	-	nm
Pre-tax income	(109)	(143)	268	nm
Tax	(3)	9	(93)	nm
Net income from discontinued activities				nm
Net income	(112)	(134)	175	nm
Minority interests	(84)	(84)	15	nm
Net income Group share	(28)	(50)	160	nm

*事業適応計画の影響分修正後

2012年度第1四半期の**消費者金融部門**は、引き続き2011年12月14日に発表された事業適応計画の影響を受けました。

計画に沿った事業の減速と流動性対応によって、クレディ・アグリコル消費者金融のバランス・シート上の顧客ローンは減少しました。2011年6月以降の顧客ローン減少額は12億ユーロ、前期比では減少額は6億ユーロでした。この減少は、消費者金融市場の低迷と事業適応計画のもとで事業を縮小する対応策が取られたことと、より厳格な審査基準の採用及びターゲットとするパートナーシップを削減した結果生じたものです。

外部からの資金調達源の多様化、特に新規の法人預金を増加させたこと、ドイツでの証券化、イタリアでのEMTN債発行などにより、2012年度第1四半期の11億ユーロを含めて、2011年6月30日から2012年3月31日の間に新たに31億ユーロの流動性が確保されました。

現在のような規制の多いビジネス環境において、営業費用は抑えられ、事業適応計画によって2013年には初めてのコスト削減効果をもたらすことが予想されています。

純利益グループ帰属分は-4,000万ユーロとなり、アゴス(Agos)に対する追加引当金2億8,000万ユーロのリスク連費用によるマイナスの影響を受けました(純利益グループ帰属分-1億2,400万ユーロ)。フランス国内のリスク関連費用は、2011年度第1四半期比5,200万ユーロ減少しました。これには、事業適応計画に伴う引当金からの償還、+3,400万ユーロが含まれています。

リース・ファイナンス及びファクタリングは、引き続き事業適応計画に従って事業展開しました。

フランス国内のリース・ファイナンスでは、2011年度第1四半期のリース残高は、設備リース及び不動産リースともに計画的に削減されました。海外におけるリース残高も、マーケット状況と、より厳格な審査基準によって減少しました。運用総資産は2011年末現在が199億ユーロ、2011年3月末現在が194億ユーロだったのに対し、2012年3月末現在では197億ユーロとなりました。

ファクタリングでは、売掛債権が2011年度第1四半期と同様の91億ユーロでした。海外では、2011年7月30日に行われたユーロファクタ UK(Eurofactor UK)の売却により、16億ユーロ減少しました。

2012年度第1四半期のリース・ファイナンスとファクタリングは、堅調な業績を達成しました。2012年度第1四半期の収益は、前年同期比僅かに2.2%減少し(連結範囲の変更による影響額を除いた場合は横ばい)、営業費用は7.4%減少しました(同一条件のもとでは5.6%減少)。その結果、営業総利益は5.5%増の6,200万ユーロに達しました(同一条件のもとでは8.8%増)。リスク関連費用は、フランス国内のリース・ファイナンスとファクタリング共にギリシャの影響額を除き安定しました。ギリシャでは、リスク関連費用は2011年度第1四半期の300万ユーロ、2011年度第4四半期の9,300万ユーロに対して、1,100万ユーロとなりました。

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

厳しいマーケット環境が長期化しているにもかかわらず、資産運用、保険、プライベート・バンキング部門下にある資産運用オペレーションは、2012年3月末現在で1兆420億ユーロの総資産運用額を維持しました。前年同期比では僅かに1.9%減少しましたが、2011年12月末現在に対しては3.5%の増加となりました。これは2012年度第1四半期の流入額の回復、特にアムンディへの流入額の回復を反映しています。二重加算を除き、2012年3月31日現在の当部門の総資産運用額は8,360億ユーロに達しました。

2011年12月末から2012年3月末の間に、CAC40指標は7.7%近く上昇しました。これは、同期間の全ての資産運用に対し、プラスのマーケット影響を及ぼしました。

資産運用部門では、アムンディ(2011年7月1日に買収したBFTの資産運用オペレーションを含む)は、2011年度第1四半期と比べ極めて満足のいく業績を達成しました。2012年3月31日現在の運用資産は6,890億ユーロとなり、前年同期比では僅かに3.2%減少したものの、2011年12月31日現在に対して4.6%増加しました。これまでの傾向とは逆に、アムンディは堅調な事業展開とマーケットの好転から恩恵を受け、2012年度第1四半期の純資産流入額は56億ユーロとなり、マーケット及び通貨による影響を調整した場合245億ユーロとなりました。第1四半期の新規流入純額は、企業、法人セグメントでは42億ユーロ、ディストリビューター・セグメント(販売会社)では主にフランス国外で11億ユーロでした。同期間の従業員貯蓄管理セグメントへの流入額は37億ユーロに達し、これによって当セグメントのアムンディのマーケット・シェアは、2011年12月末現在の37%から40%へと拡大しました。一方で支店の拠点網からの流出が続き、第1四半期は-34億ユーロでした。

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change Q1/Q1
Revenues	420	377	+11.5%
Operating expenses	(187)	(202)	(7.2%)
Gross operating income	233	175	+33.0%
Tax	(77)	(63)	+21.8%
Net income	158	129	+22.2%
Net income Group share	116	95	+21.6%

2012年度第1四半期は、アムンディは引き続き良好な業績を達成し、更に米国での少数株主持分の売却により6,000万ユーロの特別益を得ました。この特別益を修正後、収益は同期間の運用資産の減少により前年同期比4.4%の減少となりました。

但し、主に業績ベースの手数料収入の改善により、その収益は2011年度第4四半期よりも約7.0%高くなりました。営業費用は引き続き低下しました(2012年度第1四半期は前年同期比7.2%減)。

売却益修正後、当期のコスト比率は1.6%改善する結果となり(52.0%)、経常総利益は僅かに1.3%減少しました。第1四半期に認識された売却益を含めると、アムンディの2012年度第1四半期純利益は1億5,800万ユーロ(前年同期比22.2%増)となり、純利益グループ帰属分への寄与は1億1,600万ユーロとなりました(21.6%増)。

資産運用サービス部門では、マーケットの回復と堅調な事業展開により、CACEISが2012年度第1四半期カストディー・管理資産額(2兆3,700億ユーロに増加)で前期比4.9%の伸びを示し、また預かり資産(1兆1,000億ユーロに増加)でも5.9%の伸びを示すことができました。ダイナミックな事業展開によって、グルパ マ・アセット・マネージメント(Groupama Asset Management)、ヌフリズOBCインベストメント(Neuflize OBC Investment)、バークレーズ・ウェルス・マネージメント(Barclays Wealth Management)、フェデラル・ファイナンス(Federal Finance)のような新規顧客を得ることができました。同時に、2012年度第1四半期の現金預金も前年同期比で大幅(57%)に増加しました。純利益は、2011年度第1四半期比28.5%増の4,900万ユーロに達しました。この伸びは、収益の5.8%の増加(高水準の金利差益の恩恵を受けた資金部門のオペレーションの収益増加並びに証券貸借が引き続き伸びたことによる)と費用の1.9%削減(運営効率改善の努力を反映)の両要因に牽引されました。全体では、営業総利益は前年同期比24.6%増加し、コスト比率は更に改善しました。コスト比率は当期間で5.1%低下し、2012年3月末現在65.7%となりました。これにより、CACEISは業界でも最も経営効率の高い最優良企業の一社であることを示しました。

プライベート・バンキングは、2011年下半年期の金融危機の悪化によりマイナスの影響を受けましたが、当期は運用資産が2.3%増の1,292億ユーロに達しました。この増加は、証券の流出を有利子預金の流入が相殺し、LCLバンク・プリベの運用資産が3.4%上昇したことによるものです。海外では、ユーロ圏の経済不安と、顧客の抱いている欧州内の銀行に対する不信感などの不安材料によって、ビジネスで

はマイナスの影響を受けたにもかかわらず、通貨による有利な影響によって、2012年度第1四半期の運用資産は2.2%増加しました。

純利益グループ帰属分は、2011年度第4四半期比68.3%増、前年同期比4.0%減の3,400万ユーロとなりました。収益は前期比11.2%*増加し、営業費用は抑えられました(0.1%減)*。2011年度第1四半期に比べて、収益は貯蓄向け金利が上昇したことにより僅かに減少しました。

2012年度第1四半期の**保険部門**は、保険料収入が64億ユーロで、生命保険の運用資産が2,238億ユーロへと増加しました。

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change Q1/Q1
Revenues	575	556	+3.3%
Operating expenses	(127)	(141)	(10.0%)
Gross operating income	448	415	+7.9%
Cost of risk	(52)	-	nm
Tax	(130)	(131)	(0.8%)
Net income	266	284	(6.4%)
Net income Group share	264	281	(5.9%)

不安定なマーケットが長期化する中で、また2011年第4四半期が極めて厳しい状況であった中で、フランス国内の生命保険部門は伸びを記録し、その寄与率は16%の増加を記録しました。ユニットリンク型保険への流入額は、マーケットが13%[†]だったのに対し、15%に達しました。

フランス国内の損害保険は堅調に事業展開し、保険料収入は引き続き伸びを示しました(前年同期比8%増)。この伸び率はマーケットの平均伸び率4%*を遥かに上回りました。他の部門全てにおいても同様、伸び率はマーケットの平均を上回りました。保険契約件数は前年同期比6%増加しました。

フランス国内の信用保険部門では、安定した住宅ローンの保険収入を生みました。逆に、欧州の他の地域では、特にイタリアの車のローン保険のビジネスが伸び悩みました。信用保証保険を除き海外の子会社は僅かな伸びを示しました。

2012年度第1四半期は、保険部門の純利益グループ帰属分が2012年第1四半期中に行われたギリシャ国債の国債交換を含めて2億6,400万ユーロとなりました。この国債交換による影響額は5,300万ユーロで、交換の時点でリスク関連費用として認識されました(純利益グループ帰属分への影響は-3,500万ユーロ)。ギリシャ国債の交換(PSI)の結果発生した損失に関連する今回の費用削減は修正され、営業費用は全般的に安定しました。PSIでは一部税控除の恩恵を受けました。

*通貨と会計範囲による影響を除く Excluding currency and scope effects

† 2012年3月のFFSA数値

‡ 2012年3月のFFSA数値

損害保険では、2012年2月に寒波があったにもかかわらず、保険金支払い金額の対収入保険料比率*は抑えられて69.3% となり、2011年度第1四半期の74.1%に対し4.8%改善しました。

財務管理は、マーケット環境を考慮して慎重に維持されました。同様に、簿価(純額)29億ユーロの

ポルトガル、イタリア、スペインのソブリン債は第1四半期中に売却されました。

2012年4月にクレディ・アグリコル・アシュアランスのBES Vida株の直接持分をBESに売却(50%)したことと、2012年3月30日にカリパルマの株式取得により当グループのCAVitaの持分を100%に増やしたことで、保険事業部門の会計範囲は変更されました。

*再保険後 After reinsurance

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2012年度第1四半期の継続事業の純利益グループ帰属分は3億9,800万ユーロに達し、極めて力強い事業展開となりました(2011年度第4四半期は7,700万ユーロ)。要因としては債券部門の高収益と、ファイナンス事業の減速が僅かだったことが挙げられます。後者は2012年第1四半期から実施された現金利用を削減するプログラムによるものです。

第1四半期のCA-CIBの純利益グループ帰属分は、1億5,600万ユーロに達しました。2011年12月14日に発表された事業適応計画の影響は、2012年度第1四半期が-2億4,600万ユーロでした。当計画の影響額を除いた場合、継続事業の純利益グループ帰属分は、3億9,800万ユーロ*に達しました。これは2010年第2四半期以降最高の水準でした。2012年度第1四半期の営業費用は、前年同期比2.7%減少しました。またリスク関連費用は-3,100万ユーロと低水準に留まりました。

非継続事業(事業適応計画による影響を修正後)は、2012年度第1四半期の純利益グループ帰属分が-300万ユーロで、その影響は極めて僅かに留まりました。

2012年度第1四半期は、事業適応計画が純利益グループ帰属分に与えた影響は、-2億4,600万ユーロでした。これには、CDOとRMBSの売却に関連する非継続事業-2億5,100万ユーロ、ファイナンス事業のローン売却による-2,000万ユーロ(収益-3,100万ユーロ)、資本市場及び投資銀行部門でのCITICSとの取引からのCAシュブルー(CA Cheuvreux)の撤退による+2,500万ユーロ(営業費用+4,000万ユーロ)、という項目の数値が含まれています。

継続事業 Ongoing activities

(in millions of euros)	Q1-12*	Q1-11*	Change Q1*/Q1*
Revenues	1,425	1,561	(8.7%)
Operating expenses	(876)	(900)	(2.7%)
Gross operating income	549	661	(17.0%)
Cost of risk	(31)	(73)	(57.8%)
Operating income	518	588	(11.9%)
Equity affiliates	40	33	18.5%
Net gain/(loss) on disposal of other assets	-	3	(96.2%)
Pre-tax income	558	624	(10.6%)
Tax	(162)	(227)	(28.8%)
Net income from discontinued activities	-	-	-
Net income	396	397	(0.2%)
Minority interests	(2)	7	nm
Net income Group share	398	390	+1.9%

*2012 年は社債発行の再評価(収益+100 万ユーロ)、ローン・ヘッジ(収益+1,000 万ユーロ)、事業適応計画による影響(収益-3,100 万ユーロと営業費用+4,000 万ユーロ)の修正後。2011 年は、社債発行の再評価、ローン・ヘッジと事業適応計画*の修正後。

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q1-12*	Q1-11*	Change Q1*/Q1*
Revenues	526	638	(17.5%)
Operating expenses	(234)	(222)	5.5%
Gross operating income	292	416	(29.8%)
Cost of risk	(27)	(79)	(65.4%)
Operating income	265	337	(21.4%)
Equity affiliates	40	34	+17.6%
Net gain/(loss) on disposal of other assets	-	1	(87.5%)
Pre-tax income	305	372	(18.0%)
Tax	(81)	(142)	(43.3%)
Net income from discontinued activities	-	-	-
Net income	224	230	(2.3%)
Minority interests	(7)	(2)	nm
Net income Group share	231	228	+1.6%

*2012 年は ローン・ヘッジ(収益+1,000 万ユーロ)、事業適応計画による影響(収益-3,100 万ユーロ)の修正後。
2011 年は、ローン・ヘッジと事業適応計画の修正後。

2012年第1四半期は、事業適応計画に沿った流動性削減の目標達成のための努力が、引き続きファイナンス事業の殆どの事業部門にマイナスの影響を及ぼしました。流動性は著しく削減され、2011年第4四半期に事業適応計画の一環として開始された資産圧縮が2012年第1四半期も継続されました。第1四半期中に減損率2.5%で売却されたローンは12億ユーロに達し、2011年中に売却された64億ユーロにさらに追加されました。その結果、2012年度第1四半期の収益にはこれらの売却費用－3,100万ユーロが含まれます。2011年度第4四半期の売却費用は－1億1,600万ユーロでした。2012年度第1四半期のローン・ヘッジによる影響は僅かで、2011年第4四半期の影響額が1,400万ユーロだったのに対し、収益面でプラスの影響額が1,000万ユーロとなりました。

ストラクチャード・ファイナンス部門では、ファイナンス取引が大幅に減少したことにより、収益は3億5,800万ユーロとなりました(2011年第4四半期は3億9,100万ユーロ)。商業銀行部門では、収益環境は厳しい状況が続いたものの、シンジケーション部門で確固とした地位を維持しました。CA-CIBはフランス国内のシンジケーション・ビジネスではリーダー的立場を維持し、EMEA地域と西ヨーロッパ*では第2位の位置を確保しました。第1四半期のリスク関連費用はこれまでと同様低い水準にあり、個別引当金のネット差額は2,700万ユーロでした。また2012年3月31日現在の一般貸倒引当金の残高は横ばいでした。

* 出典：トムソン・ファイナンシャル Source: Thomson Financial

資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q1-12*	Q1-11*	Change Q1*/Q1*
Revenues	899	923	(2.6%)
Operating expenses	(642)	(678)	(5.3%)
Gross operating income	257	245	+4.9%
Cost of risk	(4)	6	nm
Operating income	253	251	+1.0%
Equity affiliates	-	(1)	(50.0%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets	-	2	nm
Pre-tax income	253	252	+0.3%
Tax	(81)	(85)	(4.3%)
Net income from discontinued activities	-	-	-
Net income	172	167	+2.7%
Minority interests	5	5	+16.3%
Net income Group share	167	162	+2.3%

* 2012年は社債発行の再評価(収益が+100万ユーロ)と事業適応計画関連の費用(営業費用が+4,000万ユーロ)。2011年は社債発行の再評価。

2012年度第1四半期の**資本市場及び投資銀行部門**は、リスクは低水準にあり、資本市場の事業活動は極めて堅調な展開となりました。

債券部門の業績は、債券取引が非常に活発だったことにより優れた業績結果を達成しました。これは、2011年末に比較して上向いてきた債券市場において、起債市場も回復していることが要因です。CA-CIBは、ユーロ債全てのリーグテーブルで第5位を占めています*。第1四半期は金融市場の状況（クレジット・スプレッド、OIS-BOR等）が改善し、アジアの投資家も市場に戻ってくる中で、債券部門の業績は堅調でした。

株式部門の収益は、例外的に低い水準にあった2011年度第4四半期の3億400万ユーロと比べて、3億2,200万ユーロと僅かに増加しました。株式ブローカレッジ業務では、CA-CIBとCITICSが2012年3月29日に取引の範囲からCAシュブルーを除外することを発表しました。そのため、2012年度第1四半期の営業費用の引当金4,000万ユーロを戻し入れました。CLSAに関するCITICSと新たな交渉が始められました。

社債発行の再評価による影響額は、2011年度第1四半期が-4,500万ユーロ、2011年度第4四半期が+2億2,800万ユーロだったのに対し、当期はプラスの影響額100万ユーロが部門収益に含まれました。

最大予想損失額(VaR)は引き続き抑えられて、2012年3月31日現在では1,600万ユーロの低水準となりました。

* 出典: トムソン・ファイナンシャル

非継続事業

(in millions of euros)	Q1-12*	Q1-11*	Change Q1/Q1*
Revenues	28	27	+5.2%
Operating expenses	(27)	(23)	+17.4%
Gross operating income	1	4	(65.0%)
Cost of risk	(12)	(57)	(78.8%)
Operating income	(11)	(53)	(79.8%)
Equity affiliates	-	-	-
Net gain/(loss) on disposal of other assets	-	-	-
Pre-tax income	(11)	(53)	(79.8%)
Tax	8	19	(59.1%)
Net income from discontinued activities	-	-	-
Net income	(3)	(34)	(91.4%)
Minority interests	-	(1)	(73.3%)
Net income Group share	(3)	(33)	(91.9%)

*2012年は事業適応計画による影響の修正（収益及びリスク関連費用-4億200万ユーロ）。2011年は修正なし。

事業適応計画の下で2011年度第4四半期に開始されたポートフォリオの売却は、2012年度第1四半期にはより早いスピードで進められました。自己勘定取引のCDOのほぼ全ポートフォリオとUS RMBS全てが、59億ユーロで売却されました(2011年の1年間で11億ユーロ)。これらの売却による税引前利益への影響額は、-4億200万ユーロ(純利益グループ帰属分への影響は-2億5,100万ユーロ)で、リスク・ウェイト資産(CRD 4 view: 資本要求指令変更版の水準)の削減(140億ユーロ)に寄与しました。これらは2011年度第4四半期に売却が行われた際の35億ユーロに加算されます。

当期のコリレーション事業は、保証業務リスクのクレジット・スプレッドの縮小と2012年2月にリスク・ウェイト資産の140億ユーロの減少(5億ユーロの資本控除後は80億ユーロ)の両方からプラスの影響を受けました。リスク・ウェイト資産の140億ユーロの減少は、2012年2月のコリレーション勘定のマーケット・リスクをブルー・マウンテン(Blue Mountain) に売却したことによるものです。

事業適応計画の影響を除き、第1四半期の非継続事業の結果はごく僅かな影響に留まりました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change Q1/Q1
Revenues	289	(318)	nm
Operating expenses	(223)	(210)	+5.9%
Gross operating income	66	(528)	nm
Cost of risk	10	11	-
Operating income	76	(517)	nm
Equity affiliates	(28)	(1)	nm
Net income on other assets	(6)	(2)	x4.4
Change in the value of goodwill	-	-	-
Pre-tax income	42	(520)	nm
Tax	(57)	131	nm
Net income from discontinued activities	-	(5)	nm
Net income	(15)	(394)	(96.2%)
Minority interests	46	49	(4.5%)
Net income Group share	(61)	(443)	(86.1%)

2012年度第1四半期の主要なイベントは、2月のハイブリッド証券の買戻しの取引です。これによって収益に+8億6,400万ユーロの影響を、純利益グループ帰属分には+5億5,200万ユーロの影響を享受できました。また、証券の売却による売却損9,300万ユーロを含んでおり、この中にはインテサの売却が含まれています(0.9%の売却により持分を2.9%に削減)。

2012年度第1四半期は、2011年度第4四半期に行われた変換保証の実施によるその影響額全てが

含まれています。第1四半期の影響額は、2011年に計上された株主前払金とT3CJの金利と比較して－1,000万ユーロ以下でした。

注：変換保証の金利は収益に計上されており、保証自体の金利は「関連会社 (Equity affiliates) 」の項目に計上されています。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2012年3月31日現在の当グループの顧客ローン残高は、12ヶ月間で3.7%増の7億9,800万ユーロに達しました。これは、地域銀行とLCLの顧客ローン残高が、2011年3月31日現在比4.1%増加したことが主な要因です。資金調達源に関しては、当グループのオン・バランスシートの顧客預金は、前年同期比11.3%増、即ち680億ユーロ以上増加したことになります。2012年3月31日現在では、これらの顧客預金は6,750億ユーロに達しました。

2012年度第1四半期には、クレディ・アグリコル・グループは前年同期比1.3%増の90億9,400万ユーロの収益を生みました。また2011年度第4四半期比では10.3%増加しました。このことは、エンボリキを除く当グループの全ての事業部門で、堅調な事業展開を維持していることを反映しています。

営業費用は、12ヶ月間で安定し、当グループのコスト比率は3月末現在で57.5%、12ヶ月間では0.8%改善しました。

2012年第1四半期の営業総利益は、ほぼ39億ユーロに達し、前年比3.2%増、前期比ほぼ63%増となりました。

コスト関連費用は、欧州包括合意によるギリシャへ支援策の延長に伴うコスト、ギリシャのための引当金、第1四半期のアゴスのための追加費用を含んでおり、12ヶ月間でほぼ75.9%増と例外的に急激な増加を記録しました。2012年度第1四半期のリスク関連費用は、ギリシャ支援策の影響を除くクレジット残高の76ベース・ポイントに相当します。ギリシャの事業セクターとカントリー・リスク関連費用を更に調整した後、リスク関連費用は2011年度第1四半期と同水準の56ベース・ポイントとなりました。

営業利益は前年同期比31.0%減の17億5,800万ユーロでした。

決算報告では、課税額は2011年度第1四半期と2012年第1四半期の間に3.0%増加しました。これには、控除対象外の多額の税金費用（主にギリシャ関連）と法人対象の法定税率の引き上げが含まれています。

全体では、2012年度第1四半期の純利益グループ帰属分は8億400万ユーロで、前年同期比47.3%減少しました。

(in millions of euros)	Q1-12	Q1-11	Change Q1/Q1
Revenues	9,094	8,978	+1.3%
Operating expenses	(5,226)	(5,231)	(0.1%)
Gross operating income	3,868	3,747	+3.2%
Cost of risk	(2,110)	(1,200)	+75.9%
Operating income	1,758	2,547	(31.0%)
Equity affiliates	63	64	(2.0%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets	(4)	4	ns
Change in the value of goodwill	-	-	ns
Pre-tax income	1,817	2,615	(30.5%)
Tax	(1,001)	(971)	+3.0%
Net income (after tax) from discontinued activities	2	(4)	ns
Net income	818	1,640	(50.1%)
Net income Group share	804	1,527	(47.3%)

クレディ・アグリコル S.A. の 2012 年 第 1 四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders の財務情報で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A. により公開されています。

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	+33 (0) 1 43 23 26 78		
Nathalie Auzenat	+33 (0) 1 57 72 37 81	Marie-Agnès Huguenin	+33 (0) 1 43 23 15 99
Sébastien Chavane	+33 (0) 1 57 72 23 46	Aurélien Marboeuf	+33 (0) 1 57 72 38 05
Fabienne Heures	+33 (0) 1 43 23 06 38		

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the first quarter of 2012 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date